

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2277102063 | | |
| 法人名 | 医療法人 社団静隆会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 大平台の家 (1号館、2号館合同) | | |
| 所在地 | 静岡県浜松市西区大平台3-36-10 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年11月1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年2月26日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaiqokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2277102063-00&PrefCd=22&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------|
| 評価機関名 | 有限会社システムデザイン研究所 |
| 所在地 | 静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階 |
| 訪問調査日 | 平成24年11月24日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・オムツはなるべく使用しない、立位ができればトイレにて排泄を行う。 ・車椅子生活にならないように移動は歩行器使用又介助歩行を行う。 ・自立をめざし、自分のことは見守りの中、できるだけ自分でやっている。 |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>佐鳴湖の西岸、住宅・店舗・公園・教育施設が揃い、浜松の新興住宅地の顔とも言える場所に位置しています。玄関前の穏やかな陽だまりには常に利用者の姿があり、犬連れの散歩者や買物帰りの近所の人たちの立ち寄りが日常的にあります。また、毎朝屋外では、ラジオ体操の音楽に反応して身体を動かし、心身がリラックスした利用者の笑顔に出会うことができます。いつも同じ時間帯に、隣りの公園に遊びにやってくる保育園児もいて、このように日々の暮らしに小さな“ふれあいの楽しみ、があるため、園児に大きく手を振って喜びを表現する利用者もいるとのこと。地域主催の大平台運動会、大平台まつりにも参加し、主催者側が事前に利用者の席を確保してくれるなど、その手厚い配慮からも地域と融合した存在になっていることが覗えます。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 新しく理念を作り共有し、一丸となって実践できるように努力していく。 | 本年度新たに作成した理念は、自分たちで誕生させたことへの愛着と責任から、胸を張っているように玄関に掲げられています。職員一人ひとりの思いが込められているため、日頃のサービスの中で浸透してきていると管理者は感じています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事に入居者、職員共に参加している。散歩に出掛けた際、公園で地域の方達と交流している。 | 自治会に加入していて、凹見坂が廻つてきます。近所の人が買物途中にお菓子のおすそ分けをしてくれたり、散歩途中の子どもたちの立ち寄りもあります。公園の草取りにも利用者と参加し、普段の近所付き合いができています。中学の体験学習は定例化しています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議を通し、地域の自治会長・民生委員の方々に出席をいただき、理解していただいている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 状況報告や取り組みなど報告、また意見などを聞きサービス向上に活かしている。 | 運営推進会議は年に6回、自治会長、民生委員、市、包括、家族、の参加を得て開催しています。案内状や直接参加をお願いしたことが功奏して家族参加が叶いました。配膳や食べやすい食事刻みの工夫などの家族意見がサービスに活かされています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議で出席していただいている。介護相談員の訪問が毎月ある。 | 市担当者、地域包括は毎回運営推進会議に参加し、また、事業所側も会議議事録や各種書類は必ず手渡して届けるなど関係の構築が出来ています。定期訪問の介護相談員は、利用者の声によく傾聴し、貴重な気付きをを与えてくれています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員は研修を受け、禁止の対象になる行為は行っていません。玄関の施錠は18:00~9:00までとなっている。 | 身体拘束ゼロ宣言をしていて、日中の施錠はありません。本部研修会に年2回参加し、職員会議で話し合い共有化しています。毎週の本部からの朝礼文書でも、何が身体拘束にあたるのかを詳細に説明され、全員で理解し取り組んでいます。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員は研修を受け、虐待防止に努め、お互いにコミュニケーションを密にする努力をかせない。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在保佐人を利用している方がいるので、理解している | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に説明している。また変更があればその都度説明し、契約書を交わしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 常に聞き入れる体制はあるが、運営推進会議に意見を出していただけるようにしている。 | 請求書は手渡しを原則とするなど面会を促す工夫があるため、面会時に家族の意見や要望が丁寧に聞かれています。面会の少ない家族には電話で直接説明しています。意向を吸い上げるチャンネルとしては運営推進会議もあり、いずれも運営に反映させています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎日のカンファレンス及び毎月第3火曜日に定例会にて話し合いをしている。 | チームワークがアップしてきたため、定例会での意見が出やすくなっています。ユニット毎の業務会議は毎日、また合同定例会は毎月行っていて、業務改善に関しての意見が多く出されています。また、職員の悩みや問題については、管理者のタイムリーな声掛けで、話を聞く時間がとれています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個々の持っている資格に合った手当を付け、やりがいを持たせている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人の研修は年2回、また希望者には研修・講演等をいつでも受けられるよう配慮している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同じ系列内での交流があり、お互いに意見を交わし、良い所は参考にしている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居時、本人・家族の不安や要望を聞き、介護サービス計画書を作成し安心して生活できるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族より話を聞き、それに応えられるように努力する。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご家族が必要としていることを聞き、それに基づきプランを立てサービス計画書を作成し支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は昔話に同調し、趣味・嗜好・季節感への想いなどの話題を通して良い関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族にはなるべく会いに来ていただき、行事への参加を呼びかけ、一緒に行って頂ける方もいる。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族との外出・外泊は自由にして頂き、知人の面会も来やすいように配慮している。 | 友人の訪問もあり、寛げる場所を提供できるよう努めています。家族と出掛けることも多く、外泊する利用者もいます。ビューティーヘルパーの訪問美容がある他、美容院でのパーマかけなどを支援をしています。散歩を兼ねて近くのスーパーに頻回に行き、レクで縫物や塗り絵の趣味支援にも取り組んでいます。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 皆でベンチで会話や歌をうたったり体を動かしてしている。またぬり絵・折り紙等を行っている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 相談を受けた場合、必要に応じて対応している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 普段の会話の中で、個々の意向をくみ取り、経過記録に記入し、情報の把握に努める。 | 入居時に得た「暮らしの情報」で生活史を大切にし、また、小耳にはさんだ本人情報も話材として提供し、会話の中で思いや不満の表出に努めます。言動は「経過記録」に記載し、本人本位のサービスに活かされていて、アセスメントも年に1回は新しく作り直すようにしています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族より、入居時「暮らしの情報」生活史の資料をいただき把握している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | カンファレンスにて変化があれば話し合いどうしていくか検討する。デイサービスへケアマネが訪問し様子を確認することもある。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の意向を取り入れ、管理者・ケアマネ・職員がサービス会議で話し合い、介護計画書を作成している。本人がサービス会議に参加したケースもある。 | ケアプランは計画作成担当者が作成し、ケアマネージャーが最終チェックを行っています。担当制でモニタリングしていて、3ヶ月に1度見直しています。本人がサービス会議に参加したケースもあり、ケアプランを見直すたびに家族に説明し同意を得ることで、現状に即したものとなっています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子を介護記録及び経過記録に記入し、3ヶ月に1回のモニタリングの見直しをしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 大腿骨頸部骨折の入居者には、一時的にその方に適した歩行器のレンタルを紹介し導入した。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 個々の気持ちを束縛しないように、自由に行動できるよう見守りしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 施設の協力医院があり、家族と話し合い主治医を決めている、定期受診は職員が同行するが家族が行く方もいる。 | 協力医が近くにあり職員介助で受診支援しています。在宅のころからのかかりつけ医には家族介助を原則としていますが、不可能な場合には職員が支援しています。訪問看護師の来訪が週2回あり、夜間での対応でも適切なアドバイスが受けられ、安心に繋がっています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週2回の訪問看護師が来設し状態観察をする、異常があればその都度連絡し指示を仰ぎ、必要となれば受診する。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は経過記録及び情報記録を提供している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に説明しています。体調の悪い場合はその都度家族に話しています。 | できること、出来ないことを契約時に説明し、理解を得ています。看取りの実績はなく、必要なケースには最適な施設に転所出来るよう支援をしています。緊急時対応マニュアルも備え、AEDの取扱訓練を受けるなど、有事に備えています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員は年2回の研修を行い、緊急マニュアルを把握している。また消防署に要請し心肺蘇生方法を学んでいる。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の防災訓練を行い、避難訓練・消火訓練・通報訓練を行っている。また地域の防災訓練に参加している。 | 年2回防災訓練を行い、1回は消防署協力のもとで取り組んでいます。夜間想定での避難訓練も行いました。地域の防災訓練にも利用者で参加していて、連携に向けた関係づくりに努めています。地域から事業所への訓練参加は課題だと考えています。 | 認知症講習会などイベント性のある事業を利用して地域からの参加に繋げることが一考とし、防災訓練への地域協力が叶うことを期待します。 |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個々の人格を尊重し、言葉かけに注意している。利用者と職員という立場を踏まえている。 | 本人が受入れやすい言葉遣いに努めています。誇りを損ねないよう、特にトイレ失敗のケースには他の人たちに気付かれないように対処し、尊厳に配慮した支援を行っています。さんづけをハウスルールとしていて、本部からの朝礼文書による接遇周知にも努めています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いや希望が言え、自分で決められるような環境をつくっている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個々の気持ちに合わせて、それぞれのペースにあわせて無理のないように支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ビューティーヘルパーが隔月金曜日に来設、散髪・毛染をしている。またパーマをかけに行く方もいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の希望を取り入れて、毎週水曜日の朝食はパン食にしている。ご飯の量も個々に合わせている。また食器の片付けやテーブル拭きなどの作業を行っている。 | 嗜好調査から週1回のハン食が始まりました。回転ずしやスーパーのフードコートで好みの食事を楽しむこともあります。利用者が支度、後片付けを手伝う事もあり、大いに役割を担っています。行事で柏餅やぼた餅を皆で作り以前の生活を思いだす機会もあります | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランス、カロリー計算のあるメニューを提供している。量は個々に合わせている。水分を取っていただく様、毎食汁物を付け10時・15時はお茶を飲んでいる。水分管理の必要な人には、病院と連携をとっている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後の口腔ケアを声掛けをして行っている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 尿意の無い方の排泄チェック表を付け、その人の排泄パターンを把握し、声掛け・誘導等を行っている。おむつはできるだけ使用しないようにしている。 | 自立排泄者が6割近くおり、排泄チェック表は必要な利用者のみ記録しています。入院から戻った利用者で、誘導と見守りで自立に戻れた利用者もいます。職員は見守り観察の中、しぐさを察して対応できるようになるなどスキルの向上が見られるとのことです。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日歩行訓練を行い、体を動かすように心かけ、水分摂取に気を付けている。また主治医、看護師との連携にて内服薬の調整をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 職員の勤務体制により、時間は14:00からと決めているが入浴は毎日行っている。気の合う人同士と一緒に入浴できるように配慮している。 | 毎日の入浴者もいますが、殆どの利用者は1日おきの入浴です。マンツーマンあるいは内外介助で、女性は仲良しでの2人入浴もあり、ゆったりした会話を楽しんでいます。常時お茶ガラ湯で皮膚疾患対策を行っています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室で休息したい方は自由に休んで頂いている。また気持ち良く眠れるように、月2~3回の寝具カバーの洗濯、布団干しを行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員全員が薬の管理に関わっており理解している。変化を感じた場合は密に伝えるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 昔からある柏餅作りやぼた餅作りを一緒に手作りしている。また雑巾など縫ってくれる方や新聞紙でゴミ袋が得意な方もいる。気分を変えるようにデイサービスにも行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩の好きな方には、散歩以外でも出掛ける用事があれば一緒に行くようにしている。遠足や外食、地域の行事なども出掛けている。家族と外出する方もいる。 | 付近は公園や広めの歩道が充実していて、四季折々の変化に触れる機会もあり、日常的な散歩のほか、職員の買物にも利用者へ呼びかけ出掛けています。遠足ではガーデンパーク、花見などで楽しんでいます。 | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を所持していないと落ち着かない人や自分で管理ができる人は影響のない程度の所持金を持ち、買い物に行くことがある。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話をする人は限られているが、訴えがある時はしている。またお祝いの贈り物が届いた時は、お礼の電話を入れられるように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングと食堂が一緒になっている、窓からは公園が一望、季節感を感じることが出来る。また思い出の写真を飾ったり、季節に合わせた貼り絵を作り飾っている。 | 窓いっぱい公園のパノラマが拡がり、心休まる共用空間となっています。室内は温度湿度計で管理され、壁には外出時の思い出写真が記憶の忘却を埋めてくれています。テーブルには季節感のある花が息づき、清掃が行き届いた居間が出来あがっています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 新聞・テレビ・ぬり絵等思い思いにやりたい事、出来る事を行っている、 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家で使っていたものを使用させていただくように説明している。レースのカーテンは個人の気に入った物を付けている。 | 居室にはカーテン、エアコン、ベッド、クローゼット、洗面台が備え付けてあり、テレビや筆筒などは馴染みの物が持ち込まれていません。背丈の低い家具が多く、転倒防止対策がとられていることを視認しました。換気にも気を遣い毎日の清掃で清潔保持に努めています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室の入り口には名前を付けてあり、トイレはドアには目線の場所に記入、個々の整理だんすの引出しには品名を書き分かりやすくしている。 | | |